



8月21日 うだるような猛暑の中、参加者17名で役員会が開催され、左記の議案について話し合われました。

役員会便り



横浜陶芸友の会だより

第144号  
平成22年  
10月1日発行

- ★ 議案
- ① 窯場見学会について
- ② 秋期焼成会について
- ③ 作品展について
- ④ 聖坂養護学校文化祭のボランティアについて
- ⑤ 各部報告
- ⑥ ぐい呑み会について

総務 大内 記



学会集 窯場見学者募集

志野・織部・黄瀬戸

白磁・美濃焼の旅

11月12日(金)

13日(土)

「美濃焼」のふるさととは、多治見市、土岐市、可児市、瑞浪市など、岐阜県の東濃とよばれるところです。今回の「美濃焼の旅」は、志野・織部・黄瀬戸等を求め4市をめぐります。

訪問予定の作家紹介

・鈴木 蔵(おさむ)

志野と織部によって、日本の陶芸界を代表する人間国宝の先生です。先生は素焼き・焼成・窯出し温度など素朴な



質問にも答えてくださり、志野焼について色々な角度からのお話を伺うことができました。1メートル近くもある壁の厚いガス窯も見せていただきました。



・7代 加藤幸兵衛

5代加藤幸兵衛を祖父とし、人間国宝の加藤卓夫氏を父として成長した7代加藤幸兵衛氏です。

95年に7代目幸兵衛を襲名し、父卓夫氏のペルシヤ陶技を受け継ぎ、ラスター彩、ペルシヤ三彩、ペルシヤブルー技法等による作品製作に力を入れています。

美濃陶芸協会の会長、日本新工芸家連盟理事相談役日展の審査員等忙しい先生です

・美濃陶祖 14代 加藤康景

加藤康景氏は瀬戸・美濃地方の連房式登窯を元屋敷に築いたと言い伝えられ、美濃の「陶祖」となった加藤景延から数えて14代目です。まず、完成までに4年かかったという自宅、ギャラリーは飛騨高山から運んだ柱や白壁で建てられ美術館のようでした。

ギャラリーには織部、志野、黄瀬戸等たくさ

んの展示作品がありました。  
11月の見学時は個展中ですが、朝のお忙しい時間を空けていただきました。

・若尾 利貞  
長らく志野釉の研究を重ねてきた若尾利貞氏は、現代美濃陶芸界の頂点に位置する作陶家のひとりです。  
若尾氏は鼠志野をベースにした俎板や大皿を見ながら「現代の志野をどう培っていくか」「無駄が大事」などの言葉に、作品のすばらしさと先生の作品への限らない追求の姿勢に感動しました。また、志野の釉薬、焼成についても教えていただきました。  
ギャラリーにはたくさんの鼠志野の作品が展示され、息子さんのオブジェ、青磁の作品もありました。



・瀧口喜兵衛  
織部様式に情熱を注ぐ、現代美濃陶芸界代表する作家のひとりです。  
自宅には、「織部向付」の絵織部、総織部や黒織部茶碗、引き出し赤茶碗などが展示してありました。

見学時は手回しロクロ、織部の型おこし、抹茶茶わんの削りなどの実演をしていただく予定です。又、織部陶の窯場だった、大萱の弥七田窯の案内もしていただく予定です。

・塚本 満  
人間国宝 父（快示）の遺風をついで白磁と青白磁に彫文をこらす作家です。  
「青白磁花彫文様大皿」等美しい白磁、青白磁の作品が展示されていて、上品な美しさに感動。道具を作り、彫っていくのがいいそうです。

★ 今回お尋ねする美濃焼の6名の作家は独自の作風を目指し、それぞれ個性的な味のある作品作りをするすばらしい先生方です。  
焼成、釉薬、土等 質問のある方は事前にメモをしておくのもいいかもしれませんね。

**見学予定先**

**市之倉さかづき美術館**

幕末・明治から昭和にかけてつくられた市之倉の染付盃や他の産地の盃、遊び盃、記念盃、兵隊盃など1500点を展示。

① **幸兵衛窯・古陶資料館・工芸館・サロン「壺中洞」**

幸兵衛窯は1804年初代加藤幸兵衛により開窯され、江戸城本丸、西御丸へ染付食器を納める御用窯となりました。現

在、幸兵衛窯は7代幸兵衛の指導のもと20余名の職人で食器の制作中

古陶資料館は加藤卓夫の40年にわたるペルシャ陶器研究の資料・中国、朝鮮、美濃古陶の参考作品を展示しています。

工芸館は5代・7代幸兵衛とその長男加藤亮太郎の作品展示室です。

サロン「壺中洞」は穴窯の薪置き場を改修したサロンで、作品鑑賞をしながらコーヒーがいただける所です。

② **岐阜県陶磁資料館**（時間が空いた場合のみ）  
11月2日「各地の徳利のいろいろ」

**次はお楽しみな食事場所と宿の紹介です。**

【食事場所】12日（金） 鰻井「魚三」

13日（土） 和食処「サガミ」

【宿】 柿野温泉「八勝園湯元館」

（素朴な温泉宿です）

今回の「美濃焼きの旅」のポイントは色々な志野焼と、個性豊かな作家達に会えることです。そして、作家による実演をみることもできます。

自由行動は、さかづき美術館、幸兵衛窯見学を予定しています。よくばらず、昨年よりは

ゆったりしたスケジュールにしたつもりです。皆様の参加をお待ちしています。

事業部 清水 あや子

### 「美濃焼」窯場見学会

#### 参加申し込み方法

★ 参加希望者は、**10月20日(水)必着**で、ハガキに次の事項を記入し申し込んでください。

- 「美濃焼」窯場見学会参加
- ① 氏名
  - ② 住所
  - ③ その他

#### 【申し込み先】

石井 誠一 まで

★ 参加希望者の皆様には、後日 詳しい日程や内容を、お知らせいたします。

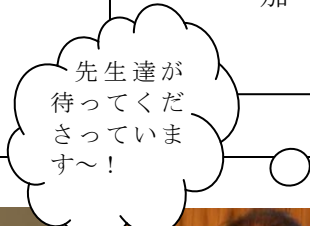
【募集人数】 40名(先着順)です。

【参加費用】 二万五千元(バス代・宿泊代)

※なお、今回の見学会は新幹線名古屋駅での**集合・解散**になります。各自それぞれの方法で名古屋駅まで往復してください。(新横浜から新幹線なら1時間半くらいで着きます)

名古屋駅集合 12 日 9 時

解散 13 日 18 時半の予定です

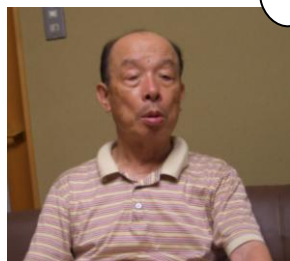


・集合してからは、バスで団体行動になり、宿泊も一緒です。**すなわち現地だけ行動が一緒**であれば、その前後の日は自由に使えます。新幹線回数券や色々な割引が個人やグループで利用できますので、早めに仲間集めや、一人旅を計画し参加してください。

事業部



七代 加藤 幸兵衛 先生



鈴木 蔵 先生



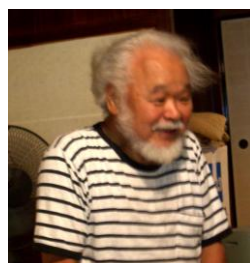
若尾 利貞 先生



加藤 康景 先生



塚本 満 先生



瀧口 喜兵衛 先生

## 第 3 2 回 『友の会作品展』のお知らせ

今年度の『作品展』の日程を、再度お知らせいたします。

申し込みと作品展の詳細については、12月初旬に会員の皆様に送付いたします。

出展料は、友の会への賛助会費です。区画はギリギリではなく、ゆとりのあるスペースで申し込み、多くの素晴らしい作品で会場が埋まりますようご協力ください。

【場所】 横浜市民ギャラリー 一階 (教育文化センター内 JR 関内駅下車)

【開催期間】 平成 23 年 1 月 12 日 (水) ~ 17 日 (月) 6 日間

【出展料】 一区画 (幅 30 cm) 2000 円

【特設コーナー】「豆皿」(直径 6 cm 以内) 3 個まで ※出展料は無料

・作陶の合間に、ぜひ挑戦してください。

事業部

# 陶陶さん

第 66 号

あかほし



(日時) 12月12日(日)  
 (集合場所) 京浜急行「金沢八景」改札口11時半  
 (会費) 4,000円  
 (申込方法) 友の会名簿をご参照いただき、幹事(大日方)まで葉書にてお申し込みください。  
 (幹事) 大日方 毅  
 (申込期限) 11月30日(火)  
 \*お酒や飲み物の持込は大歓迎です。

昨年大好評だった一日一客のおもてなしの一軒家「空(くう)」にて今年も再び「ぐい呑みと盃を楽しむ会」を企画しました。師走の忙しい時期ですが、自慢のぐい呑みと美味しい料理で楽しい年忘れをしませんか? (自作のぐい呑み、盃をどうぞお持ち下さい。)



## 第11回「ぐい呑みと盃」を楽しむ会

### 聖坂養護学校文化祭・バザーのお知らせ

作品展に出品して頂いている聖坂養護学校で11月3日(火)10時から15時半まで学校内で文化祭・バザーが催されます。付いてはバザーの生徒作品販売コーナーのお手伝いをしていただく方を募集しております。

#### (ボランティア集合場所)

- J R 山手駅 7時45分改札 (タクシーにて学校へ)
- 8時 → 売り場設営
- 12時前後 → 昼食 (朝校門で食券を受取る)
- 16時前後 → ご苦労さん会 (飲食が出ます)

その他・・・日除け帽子、汗拭きなどをお持ちください。

★お祭りにも是非おいで下さい。

お問い合わせは、鈴木和子まで

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

### 横浜陶芸友の会だより 第144号

(平成 22 年 10 月 1 日 発行)  
 発行人 横浜陶芸友の会  
 会長 松崎 紀一

編集責任者 広報部長 吉良謙

今年の夏の暑さは  
 赤星さんの漫画のとおり  
 でしたね・・・  
 漫画、上手いですね



今年(一聞?)の価値ありますか? 秋の一日をお散歩がてらいかがですか? 小松

今年には過去にない異常な暑さでした。会員の皆様にはお元気でこの夏を乗り切るこゝとが出来ましたか。※来年の作品展の豆皿一枚6cm以内だそうです。これは作らねば※聖坂のバザーの太鼓の演技も圧巻でした。一見(一聞?)の価値あります。秋の一日をお散歩がてらいかがですか? 小松

編集後記  
 今号は窯場見学会を始めとして、ぐい呑み会・聖坂バザー・新年の作品展など催し物の案内が盛り沢山です。これは友の会が活き活きと活動している証しだと思います。私は何時もながら、これ等の催事に背中を押されて作陶する事になります。 吉良